

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告書

資料1-3-3

機関名：徳島県 竹ヶ島自然再生協議会

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
<b>重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組</b>		
1	水質関係事業所等監視指導 管路等施設の適正な維持管理により水質保全を図っている。(海陽町上下水道課)	集落排水事業、下水道事業、合併浄化槽事業などにより、海域の水質保全を保っている。
<b>重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組</b>		
2	サンゴ群落保全に貢献するツーリズムの推進 「海洋自然博物館マリンジャム」を通じて、観光とレジャー施設として地域住民だけではなく、観光客にも主体となってもらえるような体制を構築する。(徳島県竹ヶ島自然再生協議会・海陽町)	これまでは、博物館内に小型水族館設備を作り、サンゴ群落周辺の生態系の展示、サンゴ礁学会でのポスター発表など普及活動にも努めてきた。その上で、サンゴ群落生態系の観察会を企画したところ、県外からの参加希望者が多く見られたことから、エコツーリズムを推進することとし、これまでの海中観光船の運行、シーカヤック、シュノーケリングを実施に加え、夏場に産卵することから、サンゴ産卵見学ツアーを実施。また、稚サンゴの展示、産卵シーンの映像を作成。 さらに、海に生息する生き物探し、海での適した遊び方をレクチャーするなど、海に親しむための活動にも力をいれているところ。
<b>重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組</b>		
3	普及啓発事業、地域社会におけるシンポジウムの主催と、自然再生協議会、竹ヶ島魅力化事業の設置	平成17年より設置された自然再生協議会で、町、漁協、学識者等と「エダミドリイシが健全に生き続けられる環境」を目標に有性生殖による種苗の作成等を実施。また、平成28年からは、地域おこし協力隊による竹ヶ島魅力化事業を展開。町、漁協、学識者も加わり活動し、シンポジウムを開催。平成30年は、ボランティアを募り、体験型学習の取り入れ、竹ヶ島に存在する分校を利用した研究施設の島民向けの活性化を検討した。
4	人材育成事業、学識者におけるサンゴ学習教育と有性生殖によるサンゴの移植活動、ワークショップの開催	竹ヶ島海域公園内に生息するエダミドリイシを守るため、平成16年から地元小学生による有性生殖活動を実施。しかし、町内の1校のみで実施しているため、今後は、中学校や一般等に拡大することを検討。また、令和元年は観光客に対し漁業説明ワークショップを実施(元まぐろ漁師であった島民による漁やまぐろ食べ方等の説明)。
その他(※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。)		
5	サンゴ移植活動の拡大	取組を拡大させるために、移植種苗の作成方法の模索。また、地域を取り入れた学習活動やサンゴの移植場所の拡大を図っているところ。